

2015年(平成27年)

9月26日

土曜日

がん予防 小学生から

橋本 医師が授業



医師(右)の授業を受ける児童ら—橋本市柏原

橋本市岸上の医療法人南労会紀和病院がこのほど、同市立西部小学校で、がん教育「紀和学校く生命の授業」を開いた。梅村定司医師(49)が、6年生児童42人と授業参観の保護者らにがんの知識と予防の大切さを語った。

子どもを中心に、がん検診の大切さや適切な生活習慣を覚えてもらうのが目的。子どもを通じ、保護者らに検診の受診を働きかけてもらう狙いもある。

15日に授業をした梅村さんは、「元気な人にもがん細胞がある」「2人に1人はがんになる」などのクイズを児童らに出題。約60兆個の細胞でできた人体では元気な人も毎日約5千個のがん

細胞を退治していることや、今は日本人の半数ががんを発病することなどを解説して驚かせていた。また、専門とする乳がんを例に「大きさが2センチより小さければ早期発見で、大きくなると体内で飛び散ってしまう。検診を受ければ数ミリの大きさで見つけられる」と、検診の必要性を教えた。

家族が発病した場合のことも考えさせ、保護者に対しては「子どもは情報がないと必要以上に不安がる。容体をわかりやすく伝えてあげてほしい」と求めた。

聴き入っていた井上咲良さん(11)は「がんのことを知って、将来は医者になって助けたいと思いました」とあいさつした。

授業は紀和病院と市、市教育委員会が協力して試験的に実施。来年度からは市内各小学校で開くことになっている。

(中田和宏)

新毎日

9月29日(火)

2015年(平成27年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

西部小でがん授業

医師が予防の大切さ訴え

がんをテーマにした授業が、橋本市立西部小学校であり、紀和病院(同市岸上)の紀和ブレスト(乳腺)センター長の梅村定司医師(49)と乳腺外科IIが、6年生約40人に予防や早期発見の大切さについて講義した。小学生向けのがん教育授業は県内で初めてという。

日本人の2人に1人は一生の間にかかる可能性があるとされるがんについて、正しい知識を発見の必要性を強調し

識を年少期から身につけてもらうと、市教委などと連携して企画した。参観日に授業が行われ、保護者約30人も聴いた。

梅村さんは「元気な人にも毎日5000個ほどがん細胞ができ、これを殺す細胞がずっと戦っている」と説明。喫煙や飲酒、食事内容など生活習慣に気を付ければ100%ではないが、予防できる」として検診による早期発見の必要性を強調し

梅村医師(右端)の話聴き、がんについて学ぶ児童ら—橋本市立西部小で



た。児童らは、保護者など大切な人ががんにかからないように自分たちができることを発表し合った。

授業を聴いた奥法子さん(12)は「たばこを吸っている家族に、やめてほしいと伝えたい」。参観した水本敦代さん(42)は「がんは早く見つかれば治ることがよく分かり、勉強になった」と話した。

梅村さんは「予防や検診について指導しても大人の意識は変えにくい。子供たちが学び、伝えることが啓発につながる」と指摘。今後市内の全小学校でがん授業を行い、医師会とも連携して推進したいとしている。

【松野和生】

児童に早めのがん教育

橋本・西部小 専門医クイズ交え

子どもたちのがんに関する正しい知識を持つてもらおうと、橋本市柏原の市立西部小学校で専門医を招いた授業があり、6年生42人が早期発見につながる検診の重要性などについて学んだ。同市教委によると、小学校レベルでの「がん教育」は全国でも珍しいという。

医療法人南労会・紀和病院(橋本市岸上)の乳がん専門の診療科「紀和ブレスト(乳腺)センター」が、子どもの頃からの学習が必要と企画。市教委などと連携して初めて実施した。

15日にあった授業で、梅村定司・同センター長は、がんの原因や予防法、治療方法などを分かりやすく解説し、「乳がんだと、検診

で数ミリの小さなしこりでも発見できます」と強調した。

また、「がんは感染しますか?」などのクイズもあり、児童らは「YES」「NO」と書かれた札で答えていた。さらに、保護者も交えて家庭での予防法について話し合った。

井上咲良さん(11)は「医師は人を助けているという話に感動しました。私も将来、患者さんたちを助きたい」と医師になる夢を語っていた。

市教委によると、来年度は市立小学校15校でがん教育を行う予定。

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2015年(平成27年)

9月30日 水曜日

がんに関するクイズに答える児童たち(橋本市で)

